


月2～3回のオリジナルDM発送で、顧客の固定化を図る

8. (合資) 池田呉服店

店舗名	池田呉服店	【店舗外観】 
所在地	佐渡市両津夷29番地	
業種	呉服、服地、婦人服小売業	
所属商店街名	両津夷本町商店街	

【店舗の概要】(沿革、立地、経営者、取扱商品など)

両津夷本町商店街は、佐渡両津港ターミナルから徒歩10分の距離にある。佐渡島と新潟市を結ぶ佐渡の玄関口であり、島内一番の商業地として栄えた。しかしながら観光客の減少、居住人口の減少（昭和30年頃約3万人であったが、現在約1万7千人）、高齢化に加え、周辺地区への相次ぐ大型店出店等が大きく影響し、空き店舗率32%となってしまった。

商店街の通りが他方へ抜ける生活道路となっているため、地元住民の自動車の交通量が多いが、自転車や歩行者の通行量は激減している。

池田呉服店は、同商店街の中程に位置し、大正2年の創業当初は呉服を中心に男女年齢問わず衣料品全般を販売していた。その後昭和50年頃から男性用の取り扱いをやめ、現在は婦人服、呉服、アクセサリ、服地、寝具、その他雑貨類と女性用ファッション商品を中心に幅広く取り扱っている。



▲両津夷本町商店街の様子



▲池田呉服店の店頭



▲婦人服コーナー



▲呉服コーナー



▲服地コーナー



▲子供服コーナー

【当店の特長】(特に優れている点)

・ 多頻度のDM発送で顧客に情報提供し、コミュニケーションを図っている

池田呉服店の優れている取り組みとしては、DMを顧客とのコミュニケーション・ツールとして徹底的に活用し、顧客の囲い込みを行っていることである。

こうした販売促進の取り組みは、先代の社長の頃から始めており、月1回程度、展示会やセールのご案内を行っていた。当時からの収集分を合わせると顧客名簿は2,000名を超えている。現在は、そのうち得意客約500人を対象として、DMを発送している。(購買履歴等の情報は収集していない。)

DMの内容は、年数回の展示会やシーズン毎の大きな商品入れ替えだけでなく、部分的な入れ替え等、新しい商品のご案内として写真入りのオリジナルDMを発送する。その他、セールの際にはDMとチラシを組み合わせる訴求する。紹介した商品が来店客との会話のきっかけとなっている。

DMは全て社長自身が事務スペースにあるパソコンとプリンターを駆使して、全て手作りで作成している。現在は月2～3回、多い時は毎週作成して顧客に発送している。新たなブランドや商品の情報提供を高頻度に行うことで、商品訴求だけでなく、お店の認知度が高まり来店につながっている。

もんや」を設置した。

「手楽子屋」は、市民のサークル活動や講習会、展示会等の場として開放し、活用されている。

「うまいもん市」は“地元産、手作り”といった一定条件を満たし登録した方は誰でも、フリーマーケット感覚で野菜、果物、生花、惣菜などを持ち込め、安価で販売する。販売スタッフを配置し委託販売方式で、売上げの 10%を出品料として徴収する。朝 9 時の開店と同時に、地域の高齢者を中心とした多くの買い物客で賑わい、閉店時間前に商品がなくなることもある。

(詳細は 41 ページを参照。)

【店舗概要情報】

店舗概要				
店舗名	(合資)池田呉服店		店舗外観	
所在地	佐渡市両津夷29番地			
創業年	大正2年			
経営者名	池田 弘平	年齢		62
所属商店街名	両津夷本町商店街			
店舗沿革	<ul style="list-style-type: none"> ・創業当初は、呉服、衣料品一般(男性、女性、子供)の販売を行っていた。 ・昭和50年代から、男性ものの扱いをやめ、婦人衣料中心とした。 			
業種	呉服・衣料等販売	取り扱い商品・サービス		
販売方法別売上構成		商品・サービス	売上構成	
仕入販売	100 %	婦人服	50 %	
加工販売	%	呉服	30 %	
製造販売	%	アクセサリー	15 %	
製造卸	%	寝具	2 %	
サービス	%	服地	1 %	
その他()	%	その他雑貨類	2 %	
売場面積	約40坪	従業者数	2(他パート2)	
立地環境	<ul style="list-style-type: none"> ・佐渡島の玄関口である両津港ターミナルから店舗まで徒歩約10分、両津夷本町商店街の中央部に位置する。 ・商店街は地元住民の自動車が多く通り、自転車や徒歩の来街者は非常に少ない。しかし、駐車場は近くにない。 			
商圈	<ul style="list-style-type: none"> ・両津地区および周辺住民 			
店舗レイアウト				
				